

社会を明るくする運動

高校生の部優秀作文

「sakura」

菊池農業高校2年 泉 拓弥



遠くから見ると純白でありながらも、近くで見れば淡いピンク色をしている春を代表する花、「桜」。日本人であるならば、月と同じように情緒をそそられ、昔から和歌の素材としても多く詠まれています。日本人にとって花と言えば「桜」だと言っても過言ではないでしょう。

桜は、北は北海道から南は沖縄まで日本各地で観賞でき、その種類も、ソメイヨシノ、ミヤマザクラ、ヤマザクラなど、多種多様です。桜が満開だった3月、さまざまな場所で桜を見ました。それは何も野外で見える実物の桜だけでなく、テレビ番組の背景や、料理店での桜を使った限定メニューなど、街中いたるところで桜を目にすることができました。また、普段誰しもが使用している百円硬貨の表に刻印されている花が桜であることに、どれだけの人が気付いているのでしょうか。桜の時期に百円硬貨を眺めると、いつもとは違った趣もあることでしょうか。そして、多くの高校生が利用しているであろうラインのホーム画面も桜の画像で彩られています。このように、日本では老若男女を問わず桜を愛でる文化が息づいていることが分かります。

なぜ私たちはこれほどまでに「桜」に心惹かれるのでしょうか。それは、単にその美しさだけでなく、桜の持つ「はかない」というイメージに魅了されたからではないのでしょうか。歌詞にも桜はよく取り上げられますが、必ずと言っていいほど「散る」「舞い振る」「ひらひら」といった言葉と結びついています。これは、我々が満開の桜にだけ魅力を感じて

いるからではなく、桜の散り際にこそ桜の本質を見出しているからではないのでしょうか。このような、桜に対して抱く日本人の心象が、例えば戦時中に使われていた特攻機に桜の花と書いて「桜花（おうか）」と名付けることにもつながっているように思えます。命を懸けて国を守るうとした若者が乗り込んだ「桜花」、その名に込められた当時の方々の思いに心を馳せると、深い感慨を覚えてなりません。

このように、桜が日本人にとって大切な花であることは述べましたが、この菊池市においても桜は大切な花であり、木です。県内でも有数の桜の名所である城山や、本校が位置する花房台地の桜並木など桜の開花時期になると多くの観光客や地元の人々でにぎわっています。昨年は、本校の生徒と共に桜の木に肥料をやったり、手入れを行いました。多くの木々の衰えに驚きました。この大切な花に環境破壊による危機が迫っていると感じました。最近の地球温暖化が、桜の開花に大きく影響していると思います。桜は、休眠に入った花になる芽が、一定期間低温にさらされ、春になり休眠から覚め開花します。これを「休眠打破」と言います。しかし、このまま温暖化が続く、休眠が十分でなくなると、桜が開花されない状況になることが、九州南部あたりでは考えられると言います。そうなるこの菊池でも、春の風物詩である花見が、近い将来行えなくなってしまうことも危惧されます。

桜を守ることは、日本の文化を守るこ

とと同義だと私は考えます。未来の日本人の桜を観賞できる喜びを、われわれは奪ってはならないと思います。そのためにも、地球環境の汚染防止活動を、より一層進めていく必要があります。また、桜の保護は、何も未来の日本人のためだけではありません。アメリカのボトマツク河畔の桜のように、海外でも重要な存在となりえると考えます。

英語では、桜のことをチェリーブロッサム、つまり「さくらんぼの花」と呼ぶのが一般的だそうです。この呼び方から、英語圏の方々が桜の「花」ではなく「実」の方に桜の個性を捉えていることがうかがえます。私は、「サクラ」という言葉を世界に広めていきたいです。例えば、日本製品で政府が認めた品質の高い物は、桜の刻印とともに「サクラ」の称号を与えようというのはいかがでしょうか。日本製品の品質の良さは世界が認めるところですが、残念ながら海外で安い模倣品が作られ、それが輸出低迷の要因の一つとなっています。日本のお礼は世界有数の偽造防止技術が活用されていますが、先ほどの高品質品には、偽造されにくい印刷やホログラム等を実施し、海外の人々の良さを感ぜてもらえば、もう一度日本製品の良さに気付く、市場を取り戻すことができるのではないのでしょうか。

春に咲く満開の桜のように、日本の経済も「桜咲く」となることを期待したいです。そして、「サクラ」の響きとともに、限りある生命を愛おしむ日本人の感性も、世界に広がっていくことを夢見。



菊池一族の心 今ここに集う

菊池一族歴史交流シンポジウム

菊池一族という縁で結ばれた岩手県遠野市、宮崎県西米良村、鹿児島県龍郷町、菊池市。一族の歴史や文化を学び、より一層の交流を深め、関心と歴史認識を高めることを目的に開催します。ぜひご来場ください。

問い合わせ先 生涯学習課 ☎0968(25)7232

11月29日(土)

正午開場 午後0時30分開会 菊池市文化会館大ホール

▼第一部 基調講演 童門冬二氏

「中世を生き抜いた菊池一族とその歴史を生かしたまちづくりについて」

▼第二部 パネルディスカッション

「菊池一族への思いと受け継がれる歴史文化について」

11月30日(日)

▼菊池一族史跡めぐりウォーキング

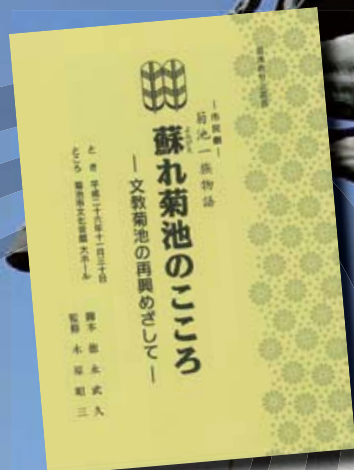
午前8時30分受付 菊池市民広場周辺

コースは隈府から巨周辺の5程度を予定しています。(事前申し込みが必要です)

▼市民劇 菊池一族物語「蘇れ菊池のこころ」 文教菊池の再興めざして

午後1時30分開演 菊池市文化会館大ホール

一族の歴史の中でいくつかの主要な場面を劇にしました。



菊池市長 江頭 実

手作りの市民劇に私も出演します。皆さんぜひお越しください！



みんな練習に励んでいます